

1 指定管理導入後（平成29年7月）の市と指定管理者における協議・確認内容

(1) システムについては、「ミュージアム資料総合管理・運営システム」とする。

・ミュージアム資料総合管理・運営システムは、「収藏品管理システム」と「コミュニケーターシステム」に二分し、作品情報の整備とデジタル化を基軸とし、収藏品の保存・共有に向けたメタデータ（付帯情報）の整備を進める。

・「収藏品管理システム」は早稲田システム株式会社による「I.B.MUSEUM SaaS」を導入する。

(2) 計画について、平成29年度から31年度の3年間でシステムの立ち上げ及び内容の整備を行う。

(3) 進捗管理について、四半期毎に市に報告する。

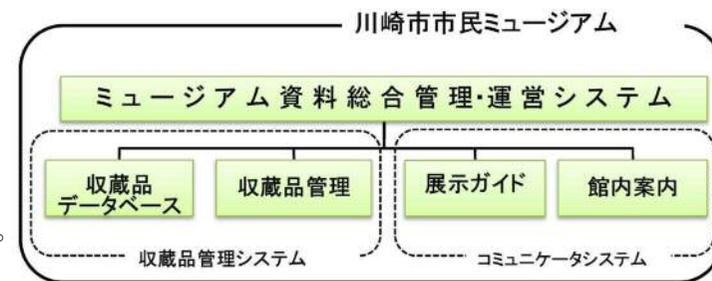
(4) データベース化（システムへの取り込み）の進め方については、年度毎で件数を決めて作業する

のではなく、エクセル上のデータ整理とデータベース化を同時並行的に進める。 ⇒ 準備のできたものから随時システムへの取り込みを行う。

(理由) ・データベース化は各分野同時並行的に進めていく

・引継ぎ時にデータベース化しやすい形にデータ整理されていたものとそうでないものによって作業時間が大幅に変わる

・各分野の学芸員は他の業務も兼務することから年度毎でそれぞれの取れる時間を細かく見込むことが難しい、等



2 計画と進捗について

年度	計画	システム取込実績		取込進捗率	
		収藏品	図書資料	収藏品	図書資料
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収藏品管理システムの立ち上げ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・館内における統一された様式における管理を目的とする。</li> <li>・準備のできたものから随時システムへの取り込みを行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗 21,221 点</li> <li>・グラフィック 6,310 点</li> </ul>	96,000 点(インターネット公開)	約 23%	約 97%
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収藏品管理データベース公開                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・収藏品データの一部をインターネット上に公開する。</li> </ul> </li> <li>●コミュニケーターシステム立ち上げ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・収藏品データを基盤としたコミュニケーターシステムの立ち上げを検討する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術文芸・貴重図書 3,001 点</li> <li>・映画 276 点</li> </ul>	2,738 点(インターネット公開)	約 24%	100%
		コミュニケーターシステムの構築に向けたデータベースの統合・整理	—	—	—
平成31年度(令和元年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンテンツの多言語化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツの多言語化を検討する。</li> </ul> </li> <li>●収藏品のデジタル化・メタデータ化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化を進め、メタデータを整備することによって収藏品を広く活用できる環境を整える。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術文芸・作品 822 点</li> <li>・グラフィック 1,210 点</li> </ul>	—	約 25%	100%

(1) 想定よりもシステムへ取り込むためのデータ整理に時間を要したため、平成31年度(令和元年度)末までに完了させることは難しい状況であった。

(2) 被災後から令和2年4月まではレスキュー活動を優先したためデータベース化作業を一次中断していたが、5月より作業を再開し、令和4年1月に作業完了するよう目標を再設定し、作業を進めている。

(3) コミュニケーターシステムについては、被災による長期休館のため作業を中断した。